

「お菓子の家」ならぬ「税の学校」

柏市立手賀中学校 第二学年 湯浅 凜音

学校に行ったことはありませんか？教室の机や椅子、黒板、教科書、学校で配布されているパソコンや楽器、体育で使うボールやとび箱などを使ったことがない人はいますか？

「どうして税金なんて払わないといけないんだろう。自分にとっては損じゃん。」と、社会人になったばかりの人が、突然そうぼやいたとします。はじめはその人の意見に共感し、自分にとっては損、どうせ国の偉い人のための何かに使われるものなんですよ、と私だったら思ってしまう。でも、本当にそうなのかな、と考えれば考えるほど、深い疑問になっていきました。

学年が一つ上がると、「進級おめでとう。」と言われます。それと同時に教科書が変わります。でも、教科書は買ってもらったことはありません。どうしてだろうと思いつつ、教科書の一番後ろを見てみると『この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。』とかかれています。これを見て、日本中の人からの税金、日本中の人からの優しさを教科書が運んでくれたのかな、と一瞬ロマンチックなことを考えてしまいました。だから、毎日あたり前に使っている教科書、「重いなー」と言いながらバッグに詰めている教科書たちは、日本中の人たちからの贈り物だ、と心にしまつて大切に使おうと思いました。

『お菓子の家』は、ドアも窓も屋根も全てクッキーやチョコレート、キャンディなどでできています。「じゃあ、学校は？」学校は、税によってできています。体育館、二十五メートルプール、理科の実験道具に教室の机や椅子、さらに学校の校舎までもが、様々な税金、所得税や消費税、自動車重量税などの税によって使われているそうです。

だからもし、税金が無かったら学校側や保護者側への負担が大きくなって、学校に行きたくても行けない子がいたかもしれないと、感じました。

日本の子供達があたり前に学校に行ける、学校に行ったら、あたり前に自分の机と椅子があつて、敷地には体育館やプールなどがあつて、授業を安全に受けることができる。

でもこれは全然あたり前じゃない。あたり前なんじゃなくて税金のおかげ。努力の塊。最後に、「お菓子の家」と同じくらい「税の学校」は尊くて凄いのなんだね。

税をはらってくれてありがとう。

その優しさ、無駄にはしません。